

一人称に対する各国の考え方の相違

L C 英語 B 4 班 此和 侑馬 近藤 凌雅

1. はじめに

皆さんご存じの通り、日本には数多くの一人称が存在する。今現在使われているだけでも「俺」、「私」、「僕」…など言い出せばきりが無い。ましてやずっと昔に使われていたものまで考え出すとなおさらだ。しかし、英語などのいくつかの言語には一人称が1つしかない。そこで私たちは、一人称に対するそもそもの考え方が国によって違っていると考え、この研究を始めた。

2. 調査の過程

- ① 日本に来ている、または滞在している外国人を対象としたアンケートを作成し、実施して結果を分析。

◎アンケートでは

- (i) 日本にはたくさんの一人称が存在することをしっているか
 - (ii) たくさん一人称があれば便利だと考えるか
 - (iii) もしあなたの母国語にもたくさんの一人称が存在すれば使うか
- という3つの質問を掲載した。

- ② 外国人を出身地によって「アジア圏」と「アメリカ・ヨーロッパ圏」という2つのグループに分ける。

*今回の調査では「アフリカ圏」の人のアンケートがとれなかったため、上の2つのグループのみとした。

- ③ 実施したアンケートをもとに、質問ごとに結果を分析。

<仮説>

「アメリカ・ヨーロッパ圏」

- (i) 日本の一人称事情についてはさすがに知らないと思う
- (ii) 普段から一つしかないため、たくさんあるとややこしくなると考える
- (iii) iiと同様の理由から使わない

「アジア圏」

- (i) 日本の文化と深く関わっているので知っている
- (ii) (i)と同様の理由で便利だと考える
- (iii) 上と同じ理由から使う

3. 結果・考察

<結果>

「アメリカ・ヨーロッパ圏」

- (i) 滞在期間が長い人では92%が知っていると言った中、短い人では知らないと言え、違いが顕著にみられた
- (ii) 文が美しくなる、といったような肯定的な意見ばかりで、予想とは反対に多くの人が便利だと答えた
- (iii) (ii) と同様の理由から使うと言った

「アジア圏」

- (i) 予想通りほとんどの人が知っていると言った
- (ii) 性別や地位によって差別的になってしまう、といったような否定的な意見もみられ、予想していたほど多くの人が便利だと答える形にはならなかった
- (iii) ほとんどの人が使うと言った

<考察>

- ・「アジア圏」の人のほうが、「アメリカ・ヨーロッパ圏」の人たちに比べると日本にたくさん一人称が存在することを知っていたことから、日本の文化や伝統に親しみを持っているほうが日本の一人称事情について知っていると考えられた。しかし、たくさん一人称がある事に肯定的で、それを便利だと考えている割合は「アメリカ・ヨーロッパ圏」の人のほうが大きかった。この理由としては、好奇心によるものではないかと考えた。また、「アジア圏」の人たちから(ii)においてでた否定的な意見は、かつて戦争が行われ植民地支配されていたなどの歴史的な背景も含まれているのではないかと考えた。

4. 課題

- ・一人称だけでなく二人称についても同様の調査を行う
- ・各国の歴史的背景などのもっと根本的な部分から調べていく
- ・年齢や性別などのジャンルに分類して違った観点から調査結果を分析する

5. 参考文献

外山滋比古 『英語の発想・日本語の発想』 NHKBOOKS

『日本語の一人称代名詞』